

全国でも数少ない
県内初

自然エネルギー活用・多彩な学習機能・市民開放型 エコスクール・人間川小学校が開校



今年、創立125周年を迎える人間川小学校は校舎の老朽化と狭山市駅西口周辺の再開発のため、平成10年度より広瀬橋東側に新校舎の建設を進めてきました。市内小中学校の中でも長い歴史を持つ同校は、次代にふさわしい多様な学習機能とともに、自然エネルギーを活用できる設備をもち、地域に開かれた新しい小学校として4月10日には始業式と入学式が行われ、「環境に配慮した学校施設（県内初のエコスクール）」として新たにスタートしました。

個性を育む
多様な学習機能
を充実

人間川小学校は、個性を育む開かれた学校づくりをテーマに子どもたちが意欲をもって自主的に学習できるように工夫してつくられています。各教室にはワークスペースが併設され、グループ学習や個別学習など、さまざまな学習形態をとることができます。また、校舎2階の多目的ホールでは、各学年間の交流や児童の自主的な学習活動、チームティーチングなどに利用できます。そして、情報教育の一環として、コンピュータ室を設置し、図書室や講堂などにも配線や端末を整備するなど、さまざまな場所でコンピュータの利用・接続が可能となっています。

主な内容

従来の廊下に代わり、普通教室全てに間仕切りのないワークスペースを併設
複数学級による授業が可能となるよう、2つの教室の間に可動間仕切りを設置
低学年用の図書コーナーを備え、遊びや談話、学年集会などに利用できるエントランスホール（床暖房）を設置
コンピュータ室のほか、職員室をはじめ、多目的ホール、エントランスホール、図書室や講堂などでのコンピュータ利用が可能
校舎をつなぐ渡り廊下に太陽と宇宙を描いたドーム天井をもった2つの塔を設置
天井から吊り下げたタイムカプセルには、子どもたちの思いが満載



間仕切りのない各教室は、グループ学習などに使用できる活動スペースを併設

太陽・水・風を
テーマに
環境に配慮した
施設を整備

入間川小学校は、太陽・風・水などの自然エネルギーなどを活用する県内初のエコスクールです。講堂の屋根に太陽光発電設備を、校舎の屋根には風力発電設備を設置するほか、太陽熱を利用したプール、さらに校舎などの屋根に降った雨水を散水に利用するなど、自然エネルギーを活用し、環境学習のための身近な教材として大いに期待されます。

主な内容

講堂の屋上に20kwの太陽光発電設備を設置。講堂または、20教室の照明をまかなうとともに非常時の照明用として5kwの蓄電池を併せて設置 売電も可能



講堂の屋上に設けられた太陽光発電設備

校舎の階段室上部に250wの風力発電設備を設置

自然観察林（ピオトープ）の池への酸素供給用動力や旧入間川小学校から移設した門柱に明かりを灯す電力などに利用

上屋に透明な屋根材を使用、太陽熱を利用し水温や室内温度を温め、3シーズン利用可能な省エネ型のプールを設置

校舎や講堂の屋根に降った雨を地下に貯留し、グラウンドや植栽への散水に利用

環境教育の教材として、太陽光および風力発電の状況を一目で確認できる表示パネルを設置



風力発電設備



地域にも開放する省エネ型のプールは太陽熱を利用し3シーズン利用が可能



ランチタイムをはじめ学年集会、作品展示、保護者や地域交流の場などにも利用できる多目的ホールを設置

地域に
開かれた
学校施設

また、入間川小学校は、地域開放に向けた取り組みとして、コミュニケーションルームや特別教室、講堂プールなどを生涯学習や集会などのために地域に開放します。ほかにも校舎にエレベーターを設置するほか各施設へのスロープや障害者用のトイレなど、だれもが利用できるように配慮しています。このほか、留守家庭の児童を支援する児童保育室を併設しています。

主な内容

学校開放の中心施設として、校舎にコミュニケーションルームを設置し、生涯学習や集会、打ち合わせ場所などとして幅広い利用が可能
グラウンドや講堂をはじめ校舎内の多目的ホール、エントランスホールおよび図書工作室などの特別教室並びにプールを開放
各施設の入出口のスロープ、身障者や高齢者が使用できるトイレ、



旧入間川小から移設した正門は未来へ続く歴史の道

更衣室などを整備し、段差をなくするなどバリアフリー化を進めるとともに、校舎にエレベーターを設置
学校敷地は、門扉やフェンスを極力設置せず、開放的な雰囲気の中で、地域との交流を促進
平成12年4月1日から非常災害時の避難場所に指定

問い合わせ教育総務課へ
内線5635